

「平成21年度普及に移す成果」

7月上旬出荷向けの白色系コギク新品種「常陸サニーホワイト」 (品種登録出願中)

茨城県農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

1. 品種特性

- 1) 花色は純白に近い白色である。
- 2) 自然開花期は7月上旬で、3月下旬に定植して7月東京盆出荷が可能である。
- 3) 草姿は生産者や市場・花束加工業者に要望の高い、まとまりのよい頂点咲きである。
- 4) 蕾の段階では花弁に薄いピンクが入るが、花弁が展開するとなくなる。

2. 作型(目標収量: 3,500~4,500本/a)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
7月出荷				x								

(: さし芽, : 定植, x : 摘心, : トンネル, : 出荷)

7月東京盆出荷の作型では定植時期を遅らせることにより、出荷時期を遅らせることができる

3. 育苗

- 1) 親株はハウス内のビニールトンネルで越冬し、さし芽30~40日前に新芽を摘心したのち、発生したわき芽を10cm程度で採穂する。さし穂は4~5枚の葉をつけたものを用いる。
- 2) さし芽は排水性・保水性の良い無病の床土あるいはセルトレイ(200穴程度)に行う。3~4cm間隔で3cmくらいの深さにさす。
- 3) さし芽後は十分に灌水し、その後5~6日控える。さし芽後1週間はビニールと寒冷紗をかける。
- 4) 発根後、徐々に外気と日光に当てていく。

4. 施肥

- 1) 有機肥料や緩効性肥料を主体とした元肥を、窒素、リン酸、カリを成分で各1.5kg/a施用する。
- 2) 元肥と同時に完熟堆肥200kg/aを定植15日前までに施用し、十分に土壌混和しておく。

5. 定植・栽培管理

- 1) 基本はマルチ栽培で、畝間1.2~1.4m・株間10~12センチ・上寛30~40cmの2条植えとする。
- 2) 苗が十分に活着したら生長点を浅く確実に折り取って摘心し、側枝を伸長させる。
- 3) 4月以降、生育が揃った側枝を1株当たり3本残すように整枝する。
- 4) 定植時から高さ30~40cmの小トンネル(農ポリ)で被覆し、4月に晩霜がないことを確認してからトンネルを撤去する。

6. 病虫害防除

- 1) 無病苗を用いるとともに、病虫害の予防的防除を徹底する。
- 2) 白さび病にやや弱いので、防除の際には留意する。
- 3) 連作を避け、窒素肥料の過多、排水不良に留意する。
- 4) わい化ウイルス病を発見したら抜き取り処分し、親株を更新する。

7. 収穫・調整

- 1) 切り前は販売先に応じたものとする。
- 2) 収穫は涼しい時間帯に行い、収穫後は萎れる前に水揚げを行う。

問い合わせ先

生物工学研究所 果樹・花き育種研究室 電話 0299(45)8330
園芸研究所 花き研究室 電話 0299(45)8341

